

ほとけの 混和会だより

令和二年一月

東光院

仏の混和会

第145号



謹賀新年

檀信徒皆様の
健康とご多幸と
心より
お祈り
申し上げます
令和二年元旦
合掌

檀信徒の皆様に於かれましては、健康やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。お陰を持ちながらも諸行事を通じて、さやかながらも寄り添うこととが来集い共寄りに有難く、心より御礼申し上げます。難さ、さて昨今、毎年の如く様々な災害に見舞われるように成り、今更にご多幸を身に受け止めて、居た災害を身近に経験して不安や恐怖と言ふものを

痛切に実感致しました。今更にもこの異常気象に伴い、水害や風災、そして食糧危機等の不安は次第に増加して行く事と思われまふ。この様な状況下に於いて、共に生きる「よりどころ」を築く事を切実な課題と受け止めて、本年度も諸行事と農作業等を手段として共に安心の抱ける「よりどころ」の構築に努めて参りたいと存じます。どうぞご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

もう安心 貴方の顔が 見えたから

これは相田みつおさんの言葉です。いいですね、安心の抱ける貴方の顔が見えるところ、そのようなところは大きな「よりどころ」と成りそうですね。

さて「貴方」とはどのような人なのでしょう、実は相田さんにとって「貴方」というのは相田宅のホームドクターのことを言っているそうなのです。これは良く解りますね、急な病に伏せている時先生の顔が見えたら安心が抱けます。

更に人命救助にたずさわる消防隊員の人も良くこの言葉を使われるそうです。

自宅や近所の火災に逢い、不安も頂点に達しているとき、救助する人も助けられる人も共に貴方の顔が見えたら安心です。

しかしそのような切羽詰まった時の「貴方」では無く、平日頃から他人同士でも「貴方」と言える人々の集う「よりどころ」が有ったらとてもすばらしく、大きな安心も抱ける事と思えます。

他人同士でも「貴方」と言える環境は無条件で慈愛心を施し合える仏の世界であり、私達も仏として慈愛心を育めば共に「貴方」に成り「よりどころ」と成るものと思われまふ。

愛と慈悲

「愛」これはとても響きの良いすばらしい言葉かと思えます。

しかしこの愛と言う言葉には危険な一面も含まれております。だれかを愛する時、独占欲の元に占有感が発生しその人に色々とつくしますがその愛が満たされ無かった時、私がこんなにしてやった「のに」などと「のに」を付けて恩にさせて大きな怒りと憎しみに変貌させてしまう。非常に不安定な境地なのです。

この時の「愛」はその人を愛しているようで居ながら実は己を愛していただけだったので、です。不安定な境地なのです。

その不安定な「愛」に対して、一切見返りを求め無い無条件の愛を「慈悲」と言います。

その慈悲の心を解りやすく「慈愛心」と言っております。

この慈愛心は恩に着せること無く無条件であらゆる生命を慈しみ、人々の幸を願い、人々の為につくします。そして人々の幸を無条件で喜びます。

よって「愛」を抱く事は容易ではありませんが、災いを招く一面も含まれております。

一方「慈愛心」を抱く事は容易ではありませんが、真の幸と安心と言う「よりどころ」を築く事が出来まふ。

本年度の指針として努めて参りたいと存じます。 亮観拝



今年も新年特別号と題し、今年
の干支である『鼠』に纏わる話。

比叡山延暦寺が、鼠の妖怪に襲
われた。と言う正月には相応しくな
い怪談話「頼豪鼠」を紹介します。

● 頼豪鼠 (鉄鼠)

こちら「平家物語」にも登場する
平安中期の話と言われております。
当時天台宗は、比叡山を中心と
する「山門派」と、滋賀県大津市の三
井寺を中心とする「寺門派」の二つに
別れておりました。

しかし、三井寺には新たな僧侶の
資格を授ける為の施設「戒壇院」が
無く、三井寺にとって戒壇院を建設
することが何よりの願いでした。

しかし、それをよく思っていないかっ
た延暦寺によって許可がおりず、両
者は対立しておりました。

同じ頃、子供が生まれず悩んでい
た天皇が仏教の祈祷の力によって子
供を授かるうと、祈祷の術がとても
評判であった「頼豪」という三井寺の
僧侶に「皇子が生まれれば何でも望
む褒美を差し込ませう。」と言い、頼豪
に頼み込みました。

それを承諾した頼豪は寺に戻る
と何日も護摩の祈祷を行いました。

その甲斐あって、無事に皇子がお
生まれになると天皇はとても喜び、
頼豪を呼び寄せ、感謝の言葉と褒美

に何を望むのかと訪ねると、頼豪は
「三井寺に戒壇院建設の許可を願
います。」と天皇へ申し出ました。

しかし、天皇は「それだけは一存
では許可できない。」と申し出を受
け入れてくれませんでした。

それでは約束が違うと激怒した
頼豪は、「私が冥界より連れ帰って
皇子を私と共に冥界へ連れ帰りま
しょう。」と伝えると三井寺へ戻り、
二十一日間護摩を焚き続け、最後
は悪鬼の様な姿で果てると皇子も
後を追う様にこの世を去りました。

しかし、頼豪の怒りは収まること
を知らず、大きな鼠の妖怪へと姿を
変えると、八万四千匹の鼠を引き
連れ比叡山の山を駆け上り、対立
していた延暦寺の経典や仏像に堂
塔まで、至る所を食い破りました。

頼豪の怨念に恐れをなした延暦
寺は、怨念を沈めるため社を建て事
を納めました。実は現在でも延暦
寺と三井寺には、頼豪の怒りを静め
る為の社が残されております。

人の怨みという物はとても怖いも
のです。「一年の計は元旦にあり」と
言う言葉も有ることから、一年の始
まりに日頃の行動や言動を見直し



てみる。
というの
も良い
ですね。
亮澄拝

謹賀新年

明けましておめでとうございま
す。皆様おすこやかに新春をお迎
えのことと存じます。

さて学生時分に東京オリンピッ
クの決定をテレビで拝見し、ずい
ぶん先の話だと思っておりました
が、ついに開催年の二〇二〇年を
迎えることとなりました。

昨年は私自身、いろいろと変化
のある年であり毎年何わせて頂い
た地元のお盆参りを見送るなど深
大寺での法務が中心となった一年
でもありました。年末年始も新年
の参詣にいらつしやる方々を迎え
るべく勤しんでおります。末筆に
なりましたが本年もどうぞよろし
くお願い申し上げます。 亮敬拝



令和元年十二月二十二日
共に集う境内の
大掃除を行いました

皆さんと共にほうきを持って
汗を流し、お茶を飲んで語り合
い、お蕎麦を食べて共に心を通
わすことが出来ました。

共に生きる大きな安心となりま
した。皆様の温かいぬくもり
ありがとうございました。

亮観